

- 1 日 時 2024年(令和6年)10月30日(水) 5校時
- 2 学年・組 1年4組
- 3 単元(題材) 第2章「古代までの日本」 第3節(律令国家の形成)
- 4 単元(題材)について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領 社会編 歴史的分野 (2) 内容 B 「近世までの日本とアジア」「(1) 古代までの日本」の内容に基づき設定している。学習指導要領では、身に付けるべき事項として、「律令国家の形成」「古代の文化と東アジアとの関わり」を挙げている。

古代の日本は、狩猟・採集の文化から、大陸からの本格的な農耕を取り入れた結果、身分の差や王の出現など生活の変化が起こり、国家が形成され発展した。その後、豪族や貴族が出現し、天皇による政治の展開、文化の発展などの動きが見られた時代である。この単元では、古代の日本が、人類のおこりや文明の発生から12世紀ごろまでの日本を扱い、海外との交流を通して、さまざまな制度や政策、文化を取り入れながら発展していく流れを大観し、我が国の古代までの国家形成に向けての道筋が表れているという特色について学習することをねらいとしている。

(2) 生徒観

表：2024年(令和6年)度標準学力調査中学校1年社会の本学年の結果

問題番号	問題の内容	出題のねらい	正答率	目標値
5(1)①	天皇中心の 国づくり	聖徳太子について、資料と結び付けて理解している。	68.3	80.0
5(1)③		法隆寺について、資料を読み取っている。	75.6	75.0
5(2)		平安時代の貴族のくらしに関する資料を読み取り、習得した知識と結び付けている。	43.1	55.0

本学年の生徒は、社会科の授業について「自ら学ぼうとしている」と答えた生徒は86%であり、社会科の授業に対して興味・関心を持っている生徒が多く見られる。しかし、「授業で考えることが面白い」と答えた生徒は76%であった。授業では意欲的に意見を発表する生徒が多いが、「なぜか」「どうしてか」といった問いかけに対して、根拠を持って説明することのできる生徒が限定的になってしまう。

表は本学年生徒の標準学力調査の結果である。(1)③の問題は目標値を超える正答率である。しかし(1)①と(2)の正答率は目標値には達していない。これらの結果から、習得した知識と資料を結び付けることを苦手としている生徒が見られる。また、資料から情報を読み取り、文章化して自身の意見へ構築する過程についても学年を通して苦手としている生徒が多いと考えられる。

(3) 指導観

本単元の指導にあたって、生徒の実態をふまえ、以下の3点を重視しながら進めていく。

- ①生徒たちの興味関心を引くことができる、学習課題・単元を貫く問いを設定する。
- ②複数の資料を活用し、資料から読み取れることを既習の知識と結びつける活動の場面を設定する。

→そのために、多様な意見が出てくるように、既習の事項との共通点や相違点など、資料の見方についての視点を与える。また、それらを共有する場面を設定する。

- ③資料から読み取った内容を文章化するための取り組みを設定する。

→資料から読み取る視点を段階的に与え、それらを総合して文章としてまとめることができるような問かけを行うことで自身の意見を構築できるようにしたい。

この3点を重視した学習課題を設定し、毎授業の振り返りを記述することで、内容の定着を図りつつ思考を深めることができるようにしていく。

5 単元（題材）の目標

- (1)・律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解することができる。

- ・仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風文化が進んだことを理解することができる。

(知識及び技能)

- (2)・東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することができる。

- ・古代までの日本を大観し、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

- (3)・古代までの日本について、そこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

6 単元（教材）の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 〔B(1)ア(ウ)〕 ②仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら	①東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 〔B(1)イ(ア)〕 ②古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。〔B(1)ア(イ)〕	①古代までの日本について、そこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。 〔歴史的分野(1)目標(3)〕

文化の国風文化が進んだことを理解している。 〔B（１）ア（エ）〕		
-------------------------------------	--	--

単元を貫く問い「時代が変わっていく中で天皇の権力はどのように変わっていったのだろうか」

7 指導と評価の計画（８時間）

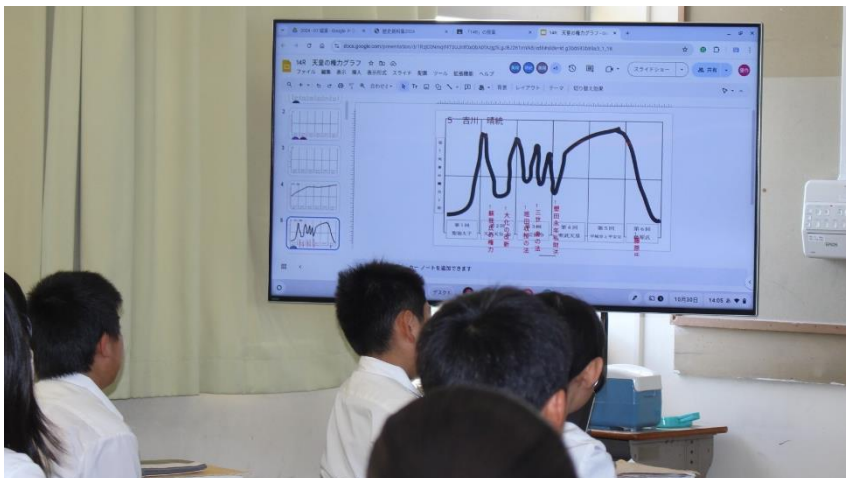
時	主な学習活動（○）・手立て（●）・ICT（★）	知	思	態	評価方法等
1	○聖徳太子が目指した国作りはどのようなものか説明する。 ●複数の資料を提示することで、多面的・多角的に考察して説明することができるようにする。 ★ロイロノートで提示した資料から分かる情報をまとめる。		①	①	振り返りシート 授業プリント
2	○天皇中心の国づくりに向けた動きについて理解する。 ●複数の資料を用いて、多面的・多角的に考察したことを理解することができるようにする。	①			振り返りシート
3	○律令国家の最終目標について説明する。 ●複数の資料を用いて、多面的・多角的に考察して説明することができるようにする。		②	①	振り返りシート
4	○聖武天皇はどのような世の中を目指したのか理解する。 ●複数の資料を用いて、多面的・多角的に考察したことを理解できるようにすることができるようにする。 ★ロイロノートで資料提示をする	①			振り返りシート
5	○平城京から平安京の遷都とその変化を理解する。 ●複数の資料を用いて、多面的・多角的に考察したことを理解することができるようにする。	①			振り返りシート
6	○摂関政治によって天皇と貴族の関係はどのようになったか説明する。 ●複数の資料を用いて、多面的・多角的に考察して説明することができるようにする。		①	①	振り返りシート
7	○各時代の文化の特徴と変化を理解する。 ●複数の資料を用いて、多面的・多角的に考察したことを理解することができるようにする。	②			振り返りシート
8 （本時）	○時代の変化によって天皇の権力が変化していったことをグラフにまとめる。 ●ICTを活用し、互いの意見を共有させ、根拠を持って自身の意見を構築することができるようにする。 ★Google スライドで情報共有をする			①	振り返りシート

8 本時の展開（8時間目）

学習内容	指導上の留意点	評価基準と方法
○これまでの学習を振り返る （個人→全体） ○学習課題を確認する。	・単元を貫く問いを再確認し、学習の見通しを立てることができるようにする。	
めあて：時代が変わっていく中で、天皇の権力はどのようにかわっていったのだろうか。		
○これまでの学習内容を踏まえ、天皇の権力の変化をGoogle スライドでグラフにまとめる。 （個人）	・グラフを書く際には権力関係が上下したポイントを意識させ、根拠を示して表現することができるようにする。 ・机間指導を行い、個別に確認する。	
★ICT の活用場面 - 意見の共有（Google スライド） - Google スライド1 ページ分を使用し、グラフを書くなどして、まとめる。 - Google スライドのコメント機能を使い、感想などを交流する。		
○まとめた Google スライドを共有する。 （全体→小集団）	・机間指導を行い、個別に確認する。 ・考えが似ている生徒、異なっている生徒に着目させ、学び合いの形を取る。 ・グラフの類型を色ごとに分け、生徒自身で色を変える。	
例1：山なり型	例2：2つ山型	例3：右肩下がり型
○共有したことをもとに、意見を再構築する。（個人）	・共有したこと（学び合いやコメント）をもとに、グラフの書き換えを行う。 ・変わらない場合もあることに留意する。	
聖徳太子の政治によって、天皇中心の国づくりが行われ、天皇の力が強まった。 その後、土地制度の崩壊や藤原氏の台頭により、天皇の権力は徐々に衰退していった。		
○まとめを行う。	・振り返りシートに記述する。	・天皇の権力が上下した場面を何点か選び、根拠をもとに説明することができている。（振り返りシート）【思考・判断・表現②】

9 授業の様子 (ICT 活用場面)

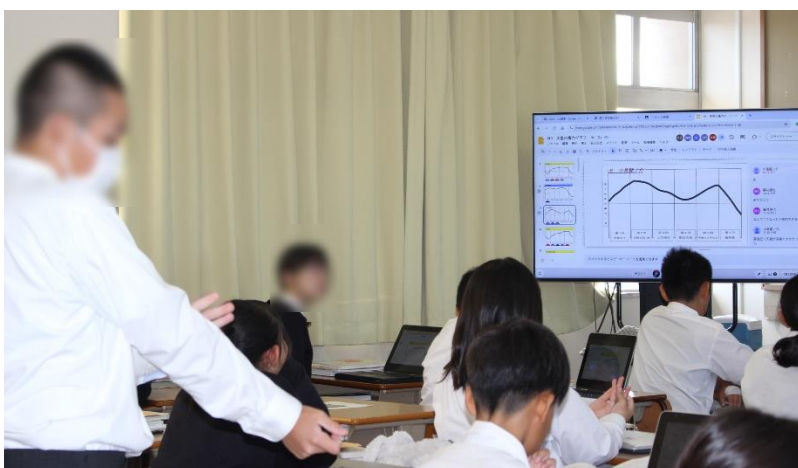
- ① 教師が天皇の権力についてのグラフのまとめ方 (ICT の活用の仕方) について説明し、生徒に学習の見通しを持たせている。



- ② 生徒同士が類型ごとに色分けをしたり、他の生徒のグラフと自分の考えを比較したりしている。



- ③ 生徒が、自分の考えたグラフについて全体に発表している。



10 研究授業の協議（思考力向上チーム）

思考力向上チーム@河内先生（社会）

正解のない「問い」へ果敢に挑戦し思考する生徒

	成果	課題
教科 の 目 標	・本事業からの単元計画ができています ・単元を貫く問いを意識した単元計画ができていた。 ・歴史の目標である「推移」「相違」に着目するという視点で考えられている。 ・正解のない問いについて、何を根拠に考えるかが大切であり、そこには何通りも正解があるということを体現している。	・権力が変わっていった時もっとピンポイントで詰めていったらよかった ・生徒の意見が割れたときのコーディネート方法や意見の引き出し方 ・さまざまな意見を聞いて最後考えさせる
学校 教育 目標	・グーグルスライドの共有⇒説明を付け足している生徒や使い方の習得を自らしている。コメント機能は強み	・ICTの操作方法慣れる（生徒・教員） ・やることを沢山詰め込まない。 ・思考の変化まで見取れるとよかった。 ・はじめに生徒の事例を出さないほうが引っ張られずに考えられるからあとの方が良かった。 ・発表や伝える練習
研究 テーマ	・自分の言葉で言おうとしていた。（教科書にある語句だけでなく）	
目指 す 子 ども 像	・最後の振り返りを教科書などを利用して、言えていたよかった。	
今後 に 向 けて	後日話し合います！	

成果	<本時の目標※1等> ・単元を貫く問いを意識した単元計画ができています。 ・授業内で権力についてという視点で考え、歴史の目標である「推移」「相違」に着目することができている。 ・正解のない問いについて、何を根拠に考えるかが大切であり、そこには何通りも正解があるということを体現している。
	<学校教育目標※2・研究テーマ※3・目指す子ども像（思考力向上チーム）※4> ・グーグルスライドの全体共有から、説明を付け足している生徒や使い方の習得を自らしていた。コメント機能は強みである。 ・生徒が教科書にある語句だけでなく自分の言葉で伝えようとしていた。 ・最後の振り返りを教科書など利用して発表できていた。
課題	<本時の目標等> ・資料を根拠に、グラフを上下に変化させた理由を明確にする必要がある。 ・生徒の意見が割れたとき、どうコーディネートするかを考える必要がある。 ・様々な意見を聞いて最後に考えさせる場面が設定できるとよい。
	<学校教育目標・研究テーマ・目指す子ども像（思考力向上チーム）> ・学習活動を精選し、授業内で思考の深化を見取れるようにする。 ・生徒の思考が深まるための全体共有するタイミングに考える必要がある。
今後に向けて	・GoogleWorkspaceなどを積極的に活用し、教員も生徒もICTに慣れていく。 ・タブレットでの様々な機能を教員同士で共有し、色々なアイデアを教員同士で出し合う。

※1 本時の目標：時代の変化によって天皇の権力が変化していったことをグラフにまとめる。

※2 学校教育目標：自立・貢献

※3 研究テーマ：探究的・対話的で自ら学びを深める授業の実現

※4 目指す子ども像：正解のない「問い」へ果敢に挑戦し思考する生徒（思考力向上チーム）